

町長発!“がんばる”トーク

町長 上川元張



若桜町では、今年度、3名の地域おこし協力隊を採用しています。4月から、そば職人で起業を目指す小濱雄史さん（中町在住）を吉川Y Y Cで、また、農業分野で、5月から宮崎良太さん（上町在住）、7月から小柳湧大さん（上町在住）の2名をいずれも（有）若桜農林振興で受け入れていただいています。

小濱さんは、吉川の寄来屋に通い、Y Y Cのメンバーにそば打ちの技術を学びつつ、日々訓練を重ねています。町のイベントではY Y Cのそばの店で接客のノウハウも学んでいます。また、そばの栽培も修行中で、自ら栽培を手掛けながらそばの産地化にも取り組む予定です。本好きな小濱さんは、そば屋と書店の複合店舗を奥様と一緒に経営する夢をお持ちです。全国に広がる「無書店自治体」から脱却できれば、それも素晴らしいことです。

宮崎さんは、島根県内の農業法人で米づくりに携わった経験をお持ちです。若桜農林振興への着任は田植えシーズン真ただ中でしたが、オペレーターとして即戦力の活躍で、同僚の皆さんからも信頼を獲得されています。将来は、若桜米のブランド化にも力を発揮していただきたいと思っています。

小柳さんは、昨夏に放映されたNHK

の「鶴瓶の家族に乾杯」を見て、若桜に好感を持って来町されました。農業経験はありませんが、若桜農林振興の活動内容や施設を見学して、ここで農業をしたいと協力隊への応募を決意したそうです。大阪市内の繁華街で生まれ育った小柳さんは、若桜のまちが静かすぎて、夜中に目が覚めることもあるそうです。

また、集落支援員として、4月から馬場崎加代子さん（八頭町在住）を池田分館に配置しています。町では初の集落支援員ですが、過疎化・高齢化で集落機能の維持が困難となりつつある池田で採用しました。馬場崎さんは管理栄養士の資格をお持ちで、食を通じた集いの場づくりに活躍されています。集落の女性を集めてちまきづくりを楽しんだり、「おしゃべりランチ会」を毎月開くなど、地元で溶け込んで活発に活動されています。高齢者の孤食が社会問題となる中、地域の人が誰でも一緒に食事や交流ができる場として、住民主体の「地域食堂」の開設を目指し、役場関係課とも連携して準備を進めていただいています。

若桜に新風を吹き込む方々の活躍を、町民の皆さんとともに応援したいと思います。